

木鉢三口

〔日本鹿子八〕下野國中ヨリ出ル名物之類

同光○日木鉢

〔大和名所圖會六乾〕芳野賦

産は、略○中 木鉢、材木、山折敷

〔毛吹草三〕大和 塗鉢

〔庭訓往來〕青漆鉢

〔真徳文集上〕從堺細物道具來由承候、略○中 染付鉢、略○中 加様之道具一色成共御媒介頼申候、

〔槐記〕享保十二年極月十日、御茶、略○中 御肴 芝川海苔、南 京染付鉢、略

〔自笑樂日記一〕不粹な客に粹な世話は蝦夷噺

當世は何にてもかはりたる事を仕出さねば、人も眼を止めず、享祿のむかし、都東山邊にて紙細工の鉢を仕出し、南京印曼梨の模様を寫し、錦出、金襴出、さまざまに見事なる張たて、水の事は扱置、たきたてのあつものをいれても、すこしも損せず、ばつちりといふ氣遣なく、龜相の小めろが取おとしてもわれざれば、遠方へのおくり物にして、その輕き事瓢も蔓をくはへ、凝ごんにやくも、中へ入事を耻る重寶、さてこそかるき物がはやると、略○下

〔西鶴傳授車三〕手柄は蜆がら身も蓋も蛸の片六

とかく今宵は不審だらけ、太鼓仲間からの御慰とて、金銀の紙にて口を封たる蜆貝百計、錦手の鉢に盛て、海老江の庄六素袍の袂をひるがへして、千秋萬歳の千箱の玉を奉ると折目だかに持て出れば、略○下

以製作爲名

〔槐記〕享保十二年閏正月廿三日、御茶、略○中 御香物、略○中 鉢、略○八角ノ平タキ、略○赤繪ノ南京